

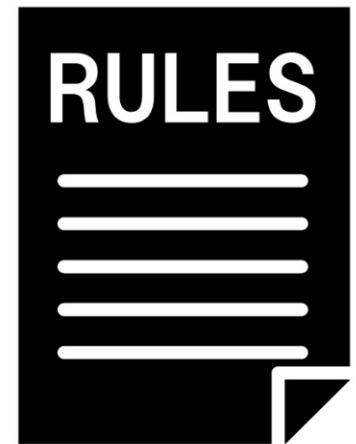
# Principal Correspondence

## 「ルールの考え方について」

リリーベール小学校ではルールブック(幼保園では重要事項説明書といいます)があり、細かいところまで書いてあるようにみえますが、実に様々な保護者の皆様の要望や今までのトラブル(なぜキャラクターものの文具はダメなのか?…人気のあるものは子どもたちが欲しがり、貸し借りをしたり、自慢したり、トラブルに発展しやすいとか…。何故「薬用」以外の日焼け止めクリームはダメなのか?…それ以外は化粧品であり、香りもあり、子ども同士で化粧品の競争に発展しやすい…)を反省してつくられています。

ルールについてこのように考えています。すなわち、

- ① ルールは最低限で良い。やたらと校則は作らないようにしましょう。ルールは一つ増やしたら一つ減らすというような見直しの努力が必要。
- ② しかし、検討して決めたルールは必ず例外なしに守るように指導する。
- ③ このルールは何故守らねばならないのか、1年生にも解っても解らなくともできる限り理由を説明する。



集団生活ですから、ルールを守ったほうが、みんなが快適に暮らせることを知らせていかねばならないと考えます。

ルールは下記のような効果があります。

- ① 心的エネルギーの節約になる。  
ルールが決まっているとその都度「どうしようか」と考え込む必要が無い。部屋の入り方、挨拶の仕方、服装の着方…本来の目的に集中でき、楽なことが多くあります。
- ② 集団の所属感が増す。  
例えば移動は列になって歩く。小さい子は上級生が守るなどの習慣は「我々意識」を育て、まとまりを作ります。個性をつぶさない程度の規範はグループの存続上必要と考えます。
- ③ アイデンティティ形成に役立つ  
例えば上級生は下級生の面倒を見ること、服装はきちんとする、音を立ててスープを飲まないなどの躰は「自分はやがてリーダーシップを発揮する立場になるのだ」というアイデンティティの形成に有効なのです。医師には医師の、ナースにはナースの職業倫理があります。それに縛られることによって、人は、自分は何者であるという職業上の使命感を確認することになるのと同じです。

ルールブックに書いてあることを学校は厳守します。私立ですから、保護者の皆様もルールブックは納得の上で学校に在籍いただいているものと理解しています。

ルールは毎年見直しています。今年は様々な見地からジェンダー教育の是非を研究し、男児の長髪や、女児の制服のパンツスタイルも見直しにかけていますが、そうなる男児のスカートも認めるようになるので、更に検討を重ねていく必要があります。



# Principal Correspondence

## 幸せの条件

私ごときが言わせていただくのはおこがましいことを承知で…。  
人が幸せになるのに私は下記のような条件が必要だと思えます(あくまで私の独断です)。

- ① 良き家庭
- ② 健康
- ③ 良き友
- ④ やりがいのある仕事
- ⑤ いくばくかのお金

②は体育やクラブ活動で！③は学校生活で！④と⑤は特に学校での学習と関係しそうです。

人は働かなくては生きていけません。自立して税金を払い、社会を支え家族を養う必要があります。これからは女性も働くのは当たり前の社会ですから、男女を問わず仕事に就くようになります。

しかも職業人生は40～50年続き人生の多くの時間を過ごすことになるので、仕事が「単にお金を稼ぐだけのつらい時間」ではなく「この仕事が好きだ」「大変だけどやりがいがある」とか「社会の役に立っているという充実感がある」といったことが幸せに近くなるのは確かです。自分に適した仕事を探すのが自分探なのです。

ある心理学者は「要するに自分の好きなことや得意を仕事に結び付けられるものを探すこと」と言います。学校教育では人との「コミュニケーションが上手になること」、「得意なことを見つけていくこと」が必要だと思えます。それが20歳ぐらいまでの教育の目的です。

小学生のうちにはふわふわと夢の中ですから、様々な経験、体験をまんべんなく行い、このふたつを模索し、中高生になったら少しずつ、適正を職業と結び付けられるための準備をしていくべきでしょう。

少なくとも、今学校に通っているのはその旅路の途中なのです。

